

Day 1

タイトル 4. モロッコの知見と経験
(1) 家庭系廃棄物分野におけるモロッコの経験の共有

発表者 内務省水衛生局サービス課 課長 Anass Laraichi

本発表は、モロッコの家庭系廃棄物国家プログラム(PNDM)にかかる経験を共有するもので、1)モロッコの廃棄物管理に関連する法制度、2)国の一般データ、3)2008年にPNDMが開始される前の廃棄物管理の状況、4)PNDM(法的枠組み、適格性の基準、実施計画、財政計画、プログラムの利点)の概要、5)PNDMの達成状況といくつかの問題点について説明された。概要は以下のとおり。

基本法第113-14条によれば、各自治体は、管轄区域内において、組織、調整及び監視を通じて地方サービスを提供する責任を負う。データによると、全人口は3380万人を超え、そのうち都市部の人口は2040万人、全国の年間廃棄物発生量は690万トン(0.76kg/人/日)、うち都市部では550万トンが発生、有機ごみは全重量の70%となっている。以前は、不十分な収集と清掃、不適切な埋立管理、将来研究及び計画の欠如、資金不足など、廃棄物管理に関する多くの問題があった。

要約

PNDMは、家庭系廃棄物の収集と清掃の徹底、高い収集率(90%)の達成、既存の全ての埋立地のリハビリと管理された埋立地への置き換え、民間セクターにとって経済的に魅力ある市場とするとともに、自治体にとって無理のない費用レベルでリサイクル産業の育成を図ることを目指している。今後15年間にわたって400億ディルハムがプログラムに割り当てられる。現在までに、管理されていない埋立地23カ所がリハビリされ、OujdaとFezには2つのバイオガスプラントが設置され、ラバトのOum Azza埋立地には選別施設が整備された。64の地方/県マスタープランが作成され、収集率は46%(2007年)から86%に、埋立率は11%(2007年)から51%に増加した。一方、各プロセスにおいていくつかの問題点も確認された。それらは、1)計画段階でのフィージビリティスタディの形骸化、2)入札段階での書類作成の遅れ、3)存在するものの機能していないモニタリング、契約外サービスの実施、過度な支払い、実施およびモニタリング段階での不正行為などである。

質疑応答のセッションでは、参加者の一人が収集率90%の測定方法について質問した。これに対し、発表者は、フィージビリティ・スタディによって設定された専門的な管理仕様の基準を適用していると説明した。